



まんだらげ

Vol.44

2018 SPRING

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

国登録有形文化財 郭家住宅(旧郭百輔医院) 和歌山市今福
紀州藩の御殿医であった郭百輔により明治10年に建築され、
当時珍しかった西洋医学による治療が行われました。



Contents

特集 / 認知症プロジェクト

TOPICS / 助産外来開設

ロボット支援下手術の保険適用拡大

リウマチ教室開講

お知らせ / 高齢者の生活の質の向上へ

ADHD合併自閉症の新しい発症メカニズムを解明

脳死下臓器提供シミュレーション

食事と健康Q&A

4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。

2 高度で先進的な医療の研究をすすめる成果を反映した医療を行います。

1 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な説明と同意のもとに、安全で心のこもった医療を行います。

基本方針

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

理念

認知症プロジェクト



1 高齢化と認知症の増加

日本は高齢化がどんどん進んでいます。65歳以上の人口の比率が今では27.3%（平成29年度版高齢社会白書）にまで増加しています。さらに和歌山県は30.9%で、全国で第7位です。認知症は年齢が5歳上昇すると約2倍に増えていきます。70歳までは数パーセント程度ですが、85歳を越えると約半分の方が、95歳を越えると8割の方が認知症であるとされています。認知症は特別な病気ではなく、誰もが自分や家族の問題として関わっていかなくてははいけません。

2 認知症とは

認知症は「もの忘れ」と同じと思っておられるかもしれませんが、確かに記憶障害も重要ですが、生活全般に必要な多くの機能、すなわち計画や段取りをつけること、計算、形をとらえたり地図を読む力、言語能力、学習、注意力、他人と協調・協力できる能力などの障害すべてが認知症に関わっています。ですから認知症とは、これらの認知機能の障害がみられること、そのことによって生活に差し障りが生じていることがポイントです。多少物忘れがあってもほぼそれまでの生活ができていれば認知症ではありません。

3 認知症の種類

四大認知症

アルツハイマー病

- もっとも多いタイプ
- 物忘れで発症し、生活全般が障害される
- 人あたりは良好で認知機能低下がわからないこともある

脳血管型認知症

- 糖尿病、高血圧などが合併
- 脳梗塞、脳出血などによる脳障害が原因

レビー小体型認知症

- 物忘れや気力低下
- パーキンソン症状（ふるえ、動作困難、歩行障害）
- 幻覚（座敷わらしのような幻視）、寝言、寝とぼけ
- 嗅覚障害、便秘

前頭側頭型認知症

- 人格変化、異常行動
- 言語障害（失語）が主症状の場合もある

治る認知症

特発性正常圧水頭症

- 脳室に過剰な脳脊髄液が貯留
- 手術で改善する場合がある

甲状腺機能低下症

- 活動性の低下が認知症に類似
- 甲状腺ホルモンの補充で改善

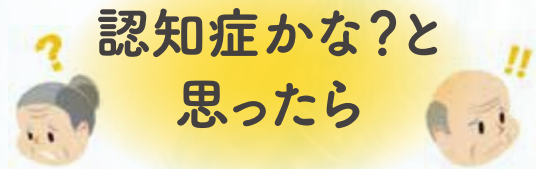
4 認知症の治療

認知症の根本的な治療は現時点ではありませんが、アルツハイマー病とレビー小体型認知症では症状の進行を抑制する薬剤を使用することができます。また生活状況に応じ、見守りや周囲の注意を強化す

るとともに、介護保険を使ってホームヘルプやデイサービスを利用するとともに、足腰をしっかり鍛えることで少しでも生活を維持できるようにすることが重要です。

5 認知症疾患医療センターについて

当院では認知症に対する窓口として認知症疾患医療センターを設置しています。神経精神科医、神経内科医、脳神経外科医が分担して認知症患者さんの診断や他院からの紹介に応じ、認知機能テストやMRIなどの画像診断を行っています。また精神保健福祉士が医療相談も行っており、物忘れが気になる、認知症が心配だ、認知症の診療を行う医療機関を教えてくださいなどのご相談に応じています。



認知症に関する相談を受けています。
受診を希望される方はまずはお電話ください。

相談専用ダイヤル **073-441-0776**

【受付時間】平日:8時45分～17時30分

受診を希望される方へ



6 和歌山県立医科大学附属病院認知症プロジェクトについて

当院は高齢社会、認知症患者さんの増加に対し積極的な取り組みをはじめました。平成30年4月から当院に入院される65歳以上のすべての患者さんに対して認知症スクリーニング検査を行っています。(診療科により開始時期が異なります)。入院手続きの際にDASC-21とMMSEという認知機能テストを行います。これにより入院される患者さんの認知機能をあらかじめ把握し、入院中の転倒・転落、点滴抜去、服薬間違いなどをできるだけ減らすよう対策することができます。また認知症がわかっていなかった患者さんに関し、かかりつけ医や介護職の方に状況をお伝えしたり、当院の認知症疾患医療センターを受診してもらうことも可能です。お手数をおかけしますが、これからの

高齢社会において非常に重要なプロジェクトですので是非ご協力ください。

和歌山県立医科大学附属病院 認知症プロジェクト

- ・超高齢社会への重要な取り組みです
- ・65歳以上の入院患者さん全員に認知機能スクリーニングテストを行います
- ・入院中の医療安全対策に生かします
- ・認知症の早期発見と退院後の療養連携を行います
- ・認知症研究により患者さんや地域に還元していきます

7 最後に

認知症は誰もがなりうる、決して人ごとではない状態です。しかし問題点をよく評価し、介護環境を整えていけば軽い認知症であれば独居を続けられるケースもたくさんあります。できないことは増えて

いきますが、多職種でサポートできる環境を整え、また認知症に対する偏見をなくし、本人が誇りをもって暮らせる社会をめざしましょう。

助産外来開設

助産外来

助産外来とは、助産師が行う妊婦健診のことです。当院では、ハイリスク・ローリスクを問わず妊婦さんの保健指導を行ってきました。

平成30年1月から助産外来を開設し、従来の保健指導に加え妊婦健診も実施します。日頃気になっていることや体の変化などについて共に考え、安心して楽しいマタニティライフを過ごすことができるよう、時間をかけて対応させていただきます。医師と協働し、安

心かつ満足していただけるようなお産に向けてサポートさせていただきます。

助産外来を利用できる方

ローリスクの妊婦さんで、ご本人・ご家族の同意があり、医師の許可がある方、合併症のない方や産科的な疾患がない方など



日時・予約方法・場所・料金

実施日: 毎週木曜日

時間: 9:00~11:40、13:00~17:00

お一人様
40分

予約方法:

まずは医師の診察を受けていただき、助産外来の利用が可能かを相談します。

次回の助産外来の予約は医師がします。
(予約センターでの予約はできません。)

日時の変更などは15:00~17:30に産婦人科外来までお電話ください。

場所: 産婦人科外来 第3診察室

料金: 医師の診察と同様 (3,700円)

※各自治体の補助券利用が可能也有ります。

助産外来の内容

- 尿検査、血圧測定、体重測定、問診、視診、触診、子宮底長・腹囲測定
- 胎児心音の聴取
- 胎児心拍数モニタリング(妊娠37週以降)
- 内診(妊娠37週以降)
- 保健指導
- バースプランの作成
- 乳房ケア
- 不安や悩みの相談

助産外来担当助産師

日本助産評価機構の認証を受けた9名のアドバンス助産師が交代で助産外来を担当します。



看護師・助産師募集中

当院では、平成31年4月1日採用となる職員を募集しています。詳細については当院看護部のホームページをご覧ください。

<http://www.wakayama-med.ac.jp>

QRコード



ロボット支援下手術の保険適用拡大

平成30年4月からロボット支援下胃癌手術が保険適用になりました。

ロボットとは、手術支援ロボット「ダヴィンチ」のことを指します。従来行われてきた開腹手術、腹腔鏡手術に比べ、緻密な手術が可能で、合併症のリスクを低下させることができます。特に、高解像度の3D画像と拡大視により膵組織とリンパ節が確実に識別でき、また、多関節機能を持つ鉗子が膵臓に触れずにリンパ節郭清を行うことができるため、胃癌手術の合併症の一つである膵液ろうが起る確率を大幅に減少させることが可能です。

当院では、保険を適用するために必要な要件をすでに満たしています。昨年度導入した「ダヴィンチXi」、「ダヴィンチSi」の2台体制で、すでに保険適用となっている前立腺、腎臓に加え、ロボット支援下胃癌手術も提供してまいります。



ダヴィンチによるリンパ節郭清

リウマチ教室開講

関節リウマチや膠原病に対しては誤った認識を持っている方が多く、また、同じ病名の方でも患者さんによってその症状や重症度、治療法が大きく異なります。患者さんやご家族に対し、正確な知識と必要な治療について情報提供を行う場として2月27日に「第1回リウマチ教室」を開催しました。

まず、藤井隆夫リウマチ・膠原病センター長が「リウマチ治療と日常生活の注意」について講演を行いました。治療において大切な薬の説明や、日常生活や食生活において気をつけるポイントについて解説しました。続いて山本佐知リウマチケア看護師が「自分の状態を知ろう」「関節リウマチ基礎療法」をテーマに講義を行いました。約40名の方が受講され、配布された資料やスライドを参照しながら熱心にメモを取られていました。また、看護師たちが作成したオリジナル自助具が展示されていました。

リウマチ・膠原病のような慢性疾患は新しい情報を得ることが大切です。今後も年に3~4回の開催を予定しています。



第1回リウマチ教室運営スタッフ



山本佐知リウマチケア看護師



藤井隆夫リウマチ・膠原病センター長

お知らせ

高齢者の生活の質の向上へ

高齢者の生活の質を向上させる新しいアシスト技術の開発への取り組みを紹介します。

これは、関西公立私立医科大学・医学部連合(兵庫医科大学、京都府立医科大学、関西医科大学、奈良県立医科大学、大阪市立大学、和歌山県立医科大学、大阪医科大学、近畿大学)とWHOとの共同研究として約80の研究グループの中から選ばれ、昨年12月に正式に承認を受けたもので、本学リハビリテーション医学講座が中心となって行います。

同意の得られた入院患者さんの下肢に小型の筋電計(筋肉の動く量を定量化する装置)を貼り付けます。患者さんの入院中の活動量のデータはホストコンピュータに送信され、蓄積されます。蓄積されたデータから下肢の筋力を維持するために必要な活動量を明らかにし、患者さんのリハビリテーション治療計画の策定に活用してまいります。

現在、データの取得及び解析などを行っているところで、平成31年1月から入院患者さんを対象に実施します。



記者発表するリハビリテーション
医学講座 田島文博教授

筋電計イメージ



ADHD 合併自閉症の新しい発症メカニズムを解明

自閉症は精神疾患(発達障害)の一つで、乳幼児期に全人口の約2%が発症するといわれています。主症状として社会的コミュニケーションの障害、繰り返し行動などが挙げられます。ADHD(注意欠如・多動性障害)も発達障害の一つですが、こちらは乳幼児期から児童期に発症し、4~17歳の約11%が発症します。主な症状としては、不注意や多動性、衝動性などが挙げられます。自閉症は他の精神疾患と合併して発症することが多いのですが、中でもADHDを合併して発症することが多く、その場合、自閉症の症状がより重篤になり、療育も難しくなります。

解剖学第2講座 森川吉博教授は自閉症のリスク遺伝子といわれるKirrel3という遺伝子の異常に着目し、その遺伝子に異常のあるマウスとそうで

ないマウスと比較し、遺伝子に異常のあるマウスはADHDを合併した自閉症の症状と類似する行動を示すことを発見しました。新しい発症メカニズムを解明したことにより、薬物などを用いた治療法の研究への橋渡しとなることが期待されます。



脳死下臓器提供シミュレーション

当院では、院内臓器移植コーディネーターが中心となり、毎年脳死下臓器提供シミュレーションを実施しています。今回は、交通事故で脳挫傷を負った男性が脳死状態となり、臓器提供を行う想定で行いました。院内の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員のほかに、日本臓器移植ネットワークなどの臓器移植コーディネーター、他医療機関職員など合わせて約40名が参加しました。

シミュレーションでは、「1. 救急搬送されてきた男性に脳死状態になる可能性が発生し、病院スタッフが家族に対して臓器提供に関するリーフレットを渡す。2. 家族が男性本人の意思を運転免許証の意思表示カードから確認し、臓器提供に同意する。3. 2回の法的脳死判定の結果脳死と判定され、臓器提供が行われる。」という一連の流れをシナリオに沿って演じ、院内外への連絡、家族への説明、書類の確認、法的脳死判定、全体ミーティング、摘出手術などの各手順を確認しました。



食事と健康 Q&A

病態栄養治療部

Q 認知症予防に効果のある食事はありますか？

A 認知症予防に有効とされる食事として、九州大学大学院による研究では、緑黄色野菜・淡色野菜・大豆・大豆製品・牛乳・乳製品・海藻類・果物・魚・芋類・卵の摂取が多く、米やアルコールの摂取が少ないという傾向があるそうです。その中でも特に発症予防に効果があった食品に、牛乳・乳製品があげられています。

つまり、主食(米)に偏らず、野菜類等のおかずを多く取り入れた食事に、牛乳やチーズ・ヨーグルト等の乳製品を加える事が、認知症の予防に有効と考えられています。

くわえて、他の研究によると、よく噛んで

食べることで、脳の活性化や空間認知機能の低下予防につながる事も明らかとなっています。

認知症予防のため、日ごろの食品の選び方や食べ方を見直してみませんか。



当院の栄養指導はフードモデルやパンフレットを使用し、わかりやすくお話できるよう心がけています。栄養指導は主治医の指示のもと行っており、ご希望の患者さんは主治医にご相談ください。

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて患者支援センターにFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

患者支援
センター

FAX番号: 073-441-0805
受付時間: 月・火・水・金 9:00～19:00
木 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約
センター

電話番号: 073-441-0489
受付時間: 月～金 8:30～16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

がん相談支援センターからのお知らせ

当院2階には様々ながん種に関するパンフレットを配架しています。ご自由にお持ち帰りください。

なお、当院では「がん相談支援センター」を設置し、患者さんやご家族のがんに対する不安・悩みやがん医療に関する情報提供や相談に応じています。御用の方は、患者相談窓口までお越しください。

相談受付時間: 平日9時00分～17時00分
(土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)



患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

<外来受付時間>

- ・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
- ・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- ・休診日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。